

# 乳癌 進行・再発 3rd Line T-DXT療法

( )コース目

患者ID : @PATIENTID

患者氏名 : @PATIENTNAME

身長 (cm)	体重 (kg)	体表面積 (m <sup>2</sup> )
\$HEIGHT01_Doc	\$WEIGHT01_Doc	#VALUE!

投与スケジュール : 1コース 21日  
使用基準 : 初回class B 2回目以降class C

使用薬剤 : トラスツズマブ デルクステカン : トラスツズマブ デルクステカン (1V : 100mg)

※ 投与前～投与中の心機能異常に要注意

※ Infusion Reaction に要注意

投与中又は投与開始後24時間以内に多く現れるInfusion reactionのうちアナフィラキシー様症状、肺障害等の重篤な副作用（気管支痙攣、重度の血圧低下、急性呼吸促迫症候群等）の発現の報告あり。

※ 間質性肺疾患があらわれ、死亡に至った症例が報告されているので、本剤投与開始前に胸部CT検査及び問診を実施し、間質性肺疾患の合併又は既往がない事を確認した上で投与の可否を慎重に判断すること。投与中は、初期症状（息切れ、呼吸困難、咳嗽、疲労、発熱等）の確認及び胸部X線検査の実施等、観察を十分に行うこと。また、異常が認められた場合には本剤の投与を中止し、副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。月1回程度、KL-6・胸部X-pの検査をすること。

※ トラスツズマブ（遺伝子組換え）、タキサン系抗悪性腫瘍剤及びトラスツズマブ エムタンシン（遺伝子組換え）による化学療法の治療歴のある患者に投与すること。

投与量 :

薬剤	標準投与量	計算値 (mg)	投与量 (mg)
トラスツズマブ デルクステカン	5.4 mg/kg	#VALUE!	

<< タイムスケジュール : 開始時刻 >>

※記載している時刻は例です。当日の投与予定時刻ではありませんのでご注意ください。

※ トラスツズマブ デルクステカンは室温での調製及び投与は合わせて4時間以内に行うこと。

day1	1月1日 (水)			
	0時00分	内服	アプレピタントカプセル 125mg 1 × ( 1 )	トラスツズマブ デルクステカン開始1時間前頃
	0時00分	①	生理食塩液 50mL + アロキシシ 1V + デキサート 9.9mg	
			15分で点滴静注	
	0時15分	②	5%ブドウ糖注射液 100mL	
			45分で点滴静注	
	1時00分	③	5%ブドウ糖注射液 100mL + トラスツズマブ デルクステカン mg + 注射用水20mL (溶解用)	
			0.2 μmのインラインフィルター一体型輸液セットを使用する	0.00 ml
			90分かけて点滴投与	
			(初回投与時は90分。90分で問題なければ30分へ変更可)	
	2時30分	④	5%ブドウ糖注射液 100mL	
			フラッシュ	

day2~5	1月2日 (金) ~ 1月5日 (月)			
	起床時	内服	アプレピタントカプセル 80mg 1 × ( 2 )	起床時
	朝食後	内服	デカドロン 4mg 1錠 1 × ( 4 )	朝食後

## REFERENCE

S. Modi, C. Saura, T. Yamashita, et al  
Trastuzumab Deruxtecan in Previously Treated HER2-Positive Breast Cancer  
N Engl J Med 382:7 NEJM.ORG FEBRUARY 13, 2020